

## 6. ぼくが人気者？

各務原市立陵南小学校6年

坂井 未来 梶田 亜由菜 伊藤 瑚乃美

↓

敦賀市立栗野小学校6年

八重樫 梢

ぼくは今、R小学校にかよっている。  
でも明日でこの学校とおわかれだ。  
なんでかって？ それは、ひどいいじめをうけているからだ。  
上ぐつに砂を入れられたり、教科書が女子トイレにあったり、いろんな事をされてい  
た。

ぼくはお母さんに相談してみた。  
そうしたら、となり町にひっこしをする事になった。

となり町の小学校はK小学校という。  
人数は少ないがみんなやさしかった。  
全校せいとの前で、じこしょう介をした。  
「ぼ、ぼくはR小からきた五年生の松山けんたです。一組になりました」  
じこしょう介が終わった。  
すっごいきんちょうした。  
五年一組のクラスに入って、またじこしょう介をした。  
席は元気な女の子のとなりだった。  
「私、木下なつみ。なっちゃんってよんでね。よろしく」  
「あっ、よろしく」  
なつみちゃんは、きんちょうしているぼくに話しかけてくれた。  
きんちょうがすこしほぐれた。  
でもR小でいじめられていたからすごく性格がぐらく、存在がうすい。なっちゃんは、  
しょんぼりしているぼくに、  
「ねえ、人気者になりたいでしょっ。人気者にしてあげるよ」  
「人気者？ でもどうやって……」  
「大丈夫！ まかしといて」  
やるきマンマンのなっちゃんだった。

次の日、なっちゃんは、ろうかでぼくをとめた。  
「まだ一日目だけど、すっごい元気におはようっていってごらんよ。私をみててね。お  
っはよ～」  
ぼくはびっくりした。でもなっちゃんのおかげで勇気がでた。  
「おっはよう」

ぼくは、はずかしくてみんなの目がみれなかった。  
でもみんなが大きな声であいさつをしてくれて、ホッとした。  
それになっちゃんは、もう一ついいことをおしえてくれた。  
「授業の時、たくさん手をあげるといいよ」  
と、いつもいていた。  
そのことを思いだして、ぼくはがんばって手をあげた。  
先生もニコニコ笑いながらぼくをあててくれた。  
少しみんなの顔がこわかったけど、発表しおわると、拍手をしてくれた。だからぼくは自信がついた。

昼休みぼくは一人、教室で本を読んでいた。  
一人の男の子が、  
「いっしょにドッジボールをしようよ」  
と、声をかけてくれた。  
ぼくは、もちろんいっしょに遊んだ。ぼくは自分がなんとなく輝いてみえた。だから  
ちょっぴりうれしくなった。  
五時間目もたくさん手をあげ、大きな声でしゃべった。

帰る時間がきた。  
ぼくが一人とぼとぼあるいていると、なっちゃんがきて、  
「胸をはって歩くんだよ、ほらっ」  
と、おしえてくれた。  
なっちゃんとは、と中までかえり道がいっしょだった。

家につくとぼくはうれしくて笑いがとまらなかった。  
ぼくは少しずつ人気者になっているのに気がついた。

次の日学校に行くといきなり、  
「ねーけんた、あそぼうぜっ」  
と、ゆうたろうが近よってきた。  
他の人もねらってたみたいだった。なっちゃんが、  
「ほら、人気者でしょ。今は、この学校にいなきゃいけない存在よ」  
ぼくは、すっごくうれしくなった。☆

こんどは給食だ。なっちゃんは、  
「もっとたくさん食べるんだよ。ほらっ」  
と言って、たくさん食べ始めた。  
でも、女の子に負けてられないと思ったぼくは、なっちゃんよりもたくさん食べ始めた。  
たくさん食べたぼくは、昼休みは教室でおとなしくしていられないと思った。なっち

ゃんは、

「自分から遊ぼうとさそってみな。きっと、いっしょに遊んでくれるよ」

と教えてくれたので、ゆうたろうを遊ぼうとさそってみた。

もちろん、ゆうたろうはいいよと言ってくれた。

ぼくは、うれしくなって、これからは自分からさそっていこう、と思った。

帰る時間、ぼくは、自分からなっちゃんに、いっしょに帰ろうとさそってみた。いいよといわれたぼくは、うれしくて、きちんと胸をはって歩いた。

また次の日の朝、ぼくは、教室のすみずみにまでひびきわたるような声で元気よく、  
「おっはよう」

と言った。なっちゃんも負けずに、

「おっはよう」

と言った。

ゆうたろうたちも先生も、みんなぼくのあいさつを返してくれて、とてもうれしくな  
った。

そして、休み時間も、みんなをさそってドッジボールをした。

もちろん、ゆうたろうもなっちゃんも二組の人たちもドッジボールを楽しんだ。そし  
たら二組の上山のぼるくんが、今日の放課後遊べるか、と聞いてきたので、ぼくは、

「きっと、ぼくが人気者になったんだ」

と、独り言を言って、のぼるくんといっしょに遊ぶことにした。

授業が始まった。

ぼくは、何度も手を挙げた。

先生もたくさんぼくを当ててくれた。

放課後、のぼる君の家でいろいろ遊んだり、ゲームをした。

たくさん遊んでたくさん夕飯を食べ、たくさん寝て、とても元気な体になり、それか  
らどんどん人気が上がって行って、ぼくはとても幸せになった。